

## 「西部医師会在宅主治医・連携医調整室」説明・意見交換会・記録

日 時：平成27年8月26日（水）午後7時～午後8時05分

場 所：鳥取県西部医師会館 3階講堂

出席者(敬称略)：西部医師会 野坂美仁、小林 哲、安達敏明、小田 貢、越智 寛、寶意規嗣、  
細田明秀、三上真顯、飛田義信、西部福祉保健局 大城陽子先生  
20病院 別紙参加者名簿添付

### 【協議概要】

#### 1. 挨拶

- ・野坂美仁会長
- ・飛田義信プロジェクトリーダー

#### 2. 説明 [野坂会長]

##### ○「西部医師会在宅主治医・連携医調整室」設置について

4つの設置目的〔基本方針〕、調整フロー、連携イメージ図等について、考え方、取組み方法、方向性を具体的に説明し、在宅医療連携における病院・在宅医療機関・地域・行政が機能的に連携して患者、家族を支援する仕組みを構築する圏域全体の枠組みではなく、各ブロック単位のきめ細かい体制をイメージしている。

また、病診連携のために、協力病院のご承諾についてご理解をお願いしたい。

(質 疑) 病院からの連絡等に、診療所側・かかりつけ医側は24時間対応するのか。

(回 答) 待ち受けは24時間対応を基本とする。しかし、医師1人診療所の場合、出張などで不在の場合は必ずしも即応できないこともある。看護師や他の連携医との連携を図って対応したい。(従来型対応)

かかりつけ医がない場合の紹介支援を充実する。

##### ○「在宅医療推進委員会ホームページ」を開設（策定途上）したので、実際に見て頂きたい。

(各診療所・病院のデータや取組み状況、各種の掲載内容を掲示し、説明。)

各診療所・病院はこれを積極的に活用して頂きたい。

また、より充実したもの、活用価値の高いものにしたいので、ご意見、ご要望を提案して頂きたい。

#### 3. 各病院からの要望・意見

##### ○ 在宅医療部門を立ち上げて連携を図るべく、医師・看護師を確保していくよう検討中。

ただ、実際に対象となる患者さんがどれだけいるだろうか。

⇒ そう思う。しかし、これからのための体制作りは構築しておきたい。

##### ○ 考え方は概ね理解しているし、退院患者さんには自宅近くの診療所を紹介している。

具体的な診療所名を出しても良いか。

⇒ 出して良い。ただし患者さんにも相性があるので、複数を紹介した上で患者さんに選択して頂いた方が良いのではないかと思う。

##### ○ かかりつけ医を持たない患者への対応をどうしようかと悩んでいたが、この体制を活用（紹介支援）してやっていきたい。

- かかりつけ医が往診をしない先生の場合があるが、この体制を活用（紹介支援）したい。
- 独居老人が退院した場合の対応も、この体制が活用（紹介支援）できる。
  - ⇒ 医師会として、この考え方・体制作りを強く推進する考えである。
- 療養型(最期まで診てくれ)の高齢者への対応に悩んでいる。
- 障害を持つ小児患者には、かかりつけ医を持ってもらいたいのだが。
  - ⇒ そういうことへの相談にも応じて、連携して、方向性を一緒に考えていきたい。
- 市町村がこの体制のことを認識していないのが現状であり、これにどう対応していくか。
  - ⇒ (米子市) 今日、すごく勉強させて頂いた。市役所内部で関係部署が連携を図って、医師会のご助言・ご尽力を頂きながらより良い対応を進めていきたいので、よろしくお願ひします。
- 10月18・19日に、福祉関係者(市町村の地域コミュニティ活動者)の全国サミットが開催される。会議の様様を参考にされたい。

#### 4. まとめ [飛田プロジェクトリーダー]

- 今日説明させて頂いたこの体制・方針を、皆様のご理解ご協力を得て、是非とも進めていきたいので、今後の連携・協力についてよろしくお願ひします。
  - … 参加者一同：賛同